

# やまぶき

埼玉北西部の和算研究の個人通信  
(題字 伊藤武夫氏)

第22号 平成二十七年(二〇一五)五月九日

発行部数 十五部 (不定期刊行)

発行者 東京都羽村市

山口 正義

## 神川町光明寺の算額 (二)

### 掲額者の伝系

前号で、子安唯夫(唯次郎)は小川七左衛門を師とした旨を記しました。七左衛門のことは良くわかりませんが、調べてみると七左衛門の師は植松是勝(号は五瀬)でした。植松英三郎是勝(上総東金)のことは本誌17号の「浅草寺の算子塚」の中で触れました。つまり、浅草・浅草寺にある「五瀬植松先生明数碑」(安政五年)のことです。思わぬ関連に少し驚きました。植松の師は日下誠ですから、伝系は、

日下誠 — 植松是勝 — 小川七左衛門 — 子安唯夫

ということになります。ただ、子安唯夫は算額で九伝を名乗っていて、七左衛門は碑文によれば八代(八伝)とありますから矛盾はありませんが、日下誠は五伝なので、植松是勝は六伝、七左衛門は七伝、子安は

八伝となる筈です。日下と七左衛門の間には植松以外にも一人いるということでしょうか。不明です。

なお、明数碑の裏面には子安義知、小安是房、子安泰根などの名が見えます(増修日本数学史)。これらの人達はあるいは子安唯夫の家と何らかの関係があったのではないかと想像したくなります。

### 桜沢英季の墓

桜沢長右衛門英季(明和五年?〜嘉永元年(一八四八)、八十歳)は本庄宿在郷の小茂田村(美里町小茂田)の人で、吉沢恭周の門人でしたが、晩年は玉村町板井の斎藤宜義にも師事した人物です。上州の市川行英や田口信武は、はじめ桜沢英季に学んでいます(『群馬県史 通史編6』)。

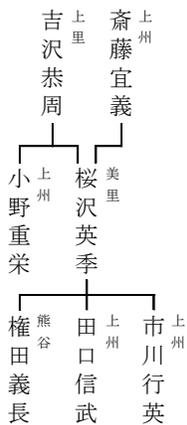
上里町勅使河原の丹生神社の算額(弘化三年)には、「櫻澤長右衛門英秀門人 上州

緑埜郡笛木新町 田口文五郎信武」とあります。

前橋市下大屋町の産泰神社の算額(年代不明)には桜沢英季と門人四人が各一問ずつ出しています(『群馬の算額』)。その中には権田義長の名もあります。内容は穿穴問題などの難問です。名は次のようにあります。

「関流七伝斎藤宜義門人 武州榛沢郡小茂田村 桜沢長右衛門英季」、「桜沢門人 武州幡羅郡三箇尾村 権田源之助正賢」、「同門人 武州榛沢郡手計村 橋本貞次郎尹寿」、「桜沢門人 武州榛沢郡待田村 島田文吉信安」、「同門人 武州榛沢郡針ヶ谷村 江角忠太郎紀道」

以上の伝系をまとめれば次のようになります。



このように、桜沢英季は北武蔵の和算の初期を考えると、上州の和算家との関係もあり、重要人物です。

筆者は四月二十九日、光明寺で算額、玉蓮寺で子安唯夫の石碑を見学した後、桜沢英季の墓を探しました。色々調べても墓の

事前情報は皆無でしたので、地図で美里町小茂田の唯一の寺院である勝輪寺を目指しました。ここに無ければ個人宅の墓地になり探すのは難しくなると思いつつ。

勝輪寺の墓地では片端から「桜澤家」の墓地を探しました。四個所目でも見つからないので諦めかけた時、目の前にあった墓石を何気なしに見たら「行年八十才」の文字が目に入って来ました。閃きました。墓には次のようにありました。

(右) 嘉永元申年十二月二十日

(正) 天壽筭翁居士

(左) (歌) 俗名櫻澤長右衛門英季  
行年八十才

また、台座正面に「門人立之」、左に「世話人 親類 組合」の文字が見えました。左側面にある歌は拓本に採ってみました



桜沢英季の墓 (勝輪寺)

が、残念ながらまだ解説できていません。(第26号参照)

### 永山義長の墓

翌日(四月三十日)は永山義長(宝暦十三年(一七六三)没)の墓を探しに行きました。

永山義長のことは『群馬県史通史編6』にあります。墓は榛名町下室田の長年寺に、また門人たちによる準墓が安中市の大泉寺にあること、準墓には碑文があることなどが書かれています。

永山義長は武州(のどこかは不明)の人で久留島義太の門人。晩年は高崎に和算の塾を開いたという。和算の世界では、いわば武州と上州を結びつけた最初の人となります。

まず長年寺に行き、墓探しを行いました。が広い墓域でなかなか見つかりません。結局長年寺開基の墓の案内のある小高い所に、ひっそりと単独であるのを見つけました。

(右) 孝子永山勘助記之(「群馬県史」では裏面とありますが実際は右側でした)

(正) 直指見性居士

とあるのみでした。



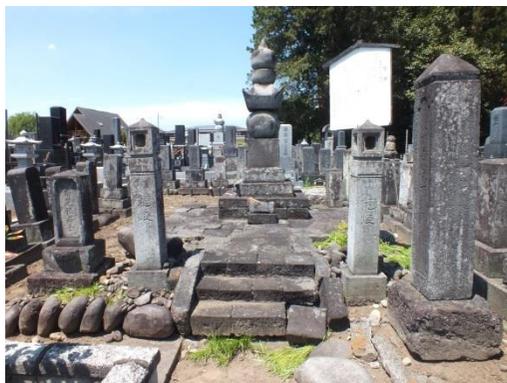
永山義長の墓 (長年寺)

次に大泉寺に行きました。大泉寺には井伊直政(初代彦根藩主)の正室で安中藩初代藩主井伊直勝の母親(唐梅院殿台誉崇玉大姉、徳川家康の養女)の墓碑(五輪塔)と、西隣には直勝の妻(隆崇院殿念誉寿専大姉、直勝の側室、お岩の方)の墓碑(五輪塔)がありました(安中市指定史跡)。

ここでも永山義長の準墓はなかなか見つかりませんでした。墓の刻印も大きさも不明のため、とにかく端から見て行くしかありません。ここでも諦めかけたときに見つけたのは、何と、既述の井伊直政の正室の墓域境でした。高さ70cm程の小さな墓でした。正面には長年寺と同じ

直指見性居士

とありました。両側面に碑文がありました。



井伊直政の正室の五輪塔、左手前に永山義長の小さな墓（大泉寺）



左側面の碑文（大泉寺）

碑文には、「武州（埼玉県）で生まれ、幼少には叔父に育てられ、算学を好み、江戸の久留嶋義太に学び、また武州岡部城主に仕え、老いて病にかかり辞して、相州鎌倉に行き、回復後高崎に住む」というようなことが刻されています。原文は次のようなものです。

碑文左

先生氏永山名義長諱見性其先武州産也幼孤故鞠於叔父某既冠自好算学随于東都久留嶋義太翁心醉故其術絶人矣漫長仕武之岡部城主然以老且疾辞遊居相之鎌倉其後踰年得疾少愈

碑文右

高崎住 高橋和全  
門人 清水解林

十二月一日 儘田勝義  
宝暦十三未天 喜治 山田憲昭誌

『群馬の算額』によれば、高崎の清水寺に享保二十年（一七三五）と安永三年（一七七四）に門人が掲額した記録があります。ともに『諸家算題額集』に載っているものようですが、筆者は未見です。

### 鳴海風氏の講演会

四月二十九日、桜沢英季の墓を見学したあと、かねて松本登志雄様から連絡頂いていた「和算小説家」鳴海風氏の講演会を聴きに深谷市の川本公民館に行きました。

演題は「世界を驚かせた江戸の天才数学者たち―和算発展の導火線に火を付けた男吉田光由―」でした。

ざっくりばらんな話し振りに好感が持てました。「江戸の天才数学者 世界を驚かせた和算家たち」を読んでいたので予備知識は多少ありましたが、日本で和算が発展したきっかけを作った吉田光由を、様々に話されていきました。

「和算小説」という造語を作り、日本電装の社員と作家の二足のわらじでしたが、昨年定年退職したということですが、今後の予定を少し伺いましたら、児童文学にも興味がありそうなことを言われていたので、ちよつとびっくりしました。

鳴海風氏の略歴などを見ると、仕事の傍らの「和算小説」だけでなく、経営情報学の博士号を取ったり、大学院も幾つも卒業したりしていて、単なる小説家とは違うようです。自称マルチサイエンスタイター（人

文学・自然科学・社会科学）と言っています。

作品リストを調べたら次のようになっています。未読のもの多数あります。

『円周率を計算した男』1998年

『算聖伝』2000年

『和算忠臣蔵』2001年

『怒涛逆巻くも 日本近代化を導いた小野友五郎と小栗忠順』2003年

『ランデの星』2006年

『美しき魔方陣 久留島義太見参』2007年

『和算小説のたのしみ』2008年

『星空に魅せられた男間重富』2011年

『江戸の天才数学者 世界を驚かせた和算家たち』2012年

### 鳩山町円正寺算額の

#### 掲額者の墓

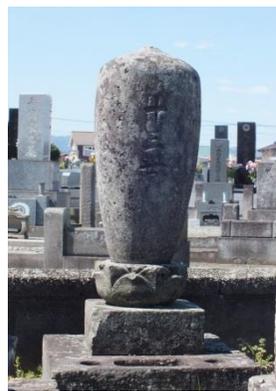
鳩山町円正寺算額については18号・19号で述べましたが、円正寺の墓地で掲額者の十三代住職の墓の写真を撮りました。

「円正寺開山大和尚歴住諸大和尚各谷品位」と題する墓碑には「十三世正宗道全大和尚 天保十四年十二月二十日」とありま

した。墓には「十三世」とあるのみで、他の文字は見つかりませんでした。

算額は文政十一年とありますから、亡くなる十五年前に掲げたことになりました。

(三月二十五日)



正宗道全大和尚の墓

### 編集後記

今号は和算家の墓の記述が多くなってきました。埼玉北西部の算者の史料が少なくなっている中、墓の刻印から得る情報も貴重です。まして碑文があると余計です。

それにしても桜沢英季の墓の左側面にある歌が解読できないのは残念。古文書の仲間に聞いてみるつもりですが…

鳴海風氏の活躍振りにも驚きました。少しは見習いたいものです。